

SAGA-LS 光源加速器の現状と進展

江田茂、岩崎能尊、高林雄一、金安達夫

九州シンクロトロン光研究センター

SAGA-LS 光源加速器における 2009 年度の運転現状と開発研究について報告する。蓄積リングは蓄積電流 300mA、2 回入射/日、運転時間 10 時間/日、運転日 4 日/週の条件で安定に放射光を提供している。光源として現在、偏向電磁石 6 台、APPLE-II アンジュレータ 1 台、プラナー アンジュレータ 1 台（佐賀大学）が利用されている。年間のビームアボート率は 2006 年開所以降着実に減少しており、2009 年度は初めて 10^{-3} 台に達した。2010 年 3 月に新たな挿入光源として超伝導ウィグラー-LS2W が設置された。ハイブリッド 3 極（超伝導メインポール × 1、常伝導サイドポール × 2）型 ウィグラーでピーク磁場 4T（臨界エネルギー 5.2keV）である。本 ウィグラーは小規模な施設における超伝導マグネットシステムの長期にわたる安定運用を特に考慮してデザインされた。現在コミッショニングが進行中である。ウィグラー開発と並行してビームエネルギー モニター、ユーザー実験への応用を目的にレーザーコンプトン実験を行い、2009 年 12 月に炭酸ガスレーザーによる 3.5MeV ガンマー線の発生に成功した。また APPLE-II アンジュレータではフリーチューニングの R&D をすすめ、プラナーモードにおけるチューン及びカップリング補償を実用化した。さらに任意磁石列位相に依存するチューン及びカップリング補償に対応するギャップ-磁石列 2 次元補償システムを開発中である。

SAGA-LS光源加速器の現状と進展

江田茂、岩崎能尊、高林雄一、金安達夫
九州シンクロトロン光研究センター



概要

蓄積リングは蓄積電流300mA、2回入射/日、運転時間10時間/日、運転日4日/週の条件で安定に放射光を提供している。光源として現在、偏方向電磁石6台、可変偏光アンジュレータAPPLE-II 1台、プラナーアンジュレータ1台（佐賀大学）を運用している。年間のビームアボート率は 10^{-3} 台に達した。2009年12月に炭酸ガスレーザーによる3.5MeVガンマ線の発生に成功した。2010年3月に超伝導ウェイグラーLS2Wを設置した。APPLE-IIアンジュレータではチューン及びカッブリング補償に対応するギャップ-磁石列2次元補償システムを開発を進めている。

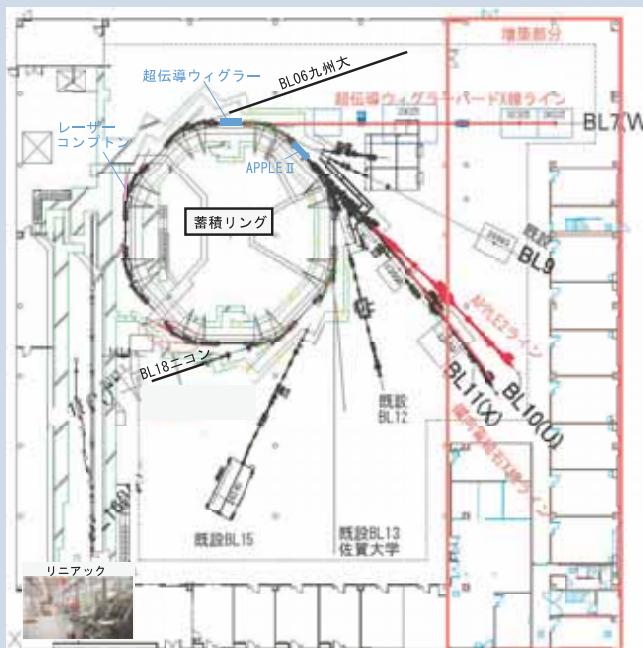
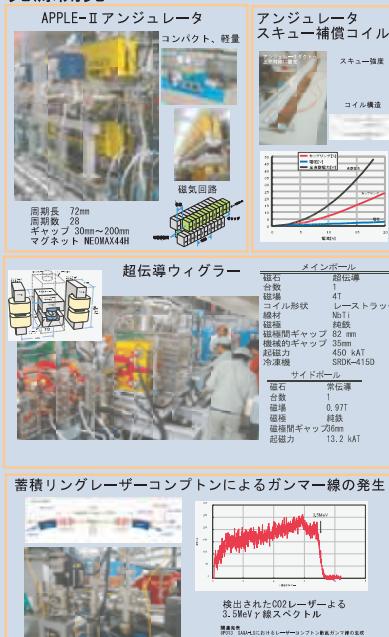
SAGA Light Source



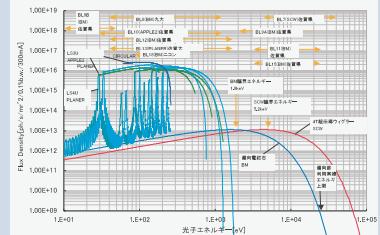
加速器

蓄積リング	75.6m
周長	1.4GeV
電子エネルギー	300mA
蓄積ビーム電流	25nmr
エミッタنس	7時間@300mA
ビーム寿命	1.9keV
臨界エネルギー	入射用リニアック
全長	30m
電子エネルギー	255MeV
繰り返し周波数	1Hz
ビーム強度 (Max)	12nC/マクロパルス

光源開発



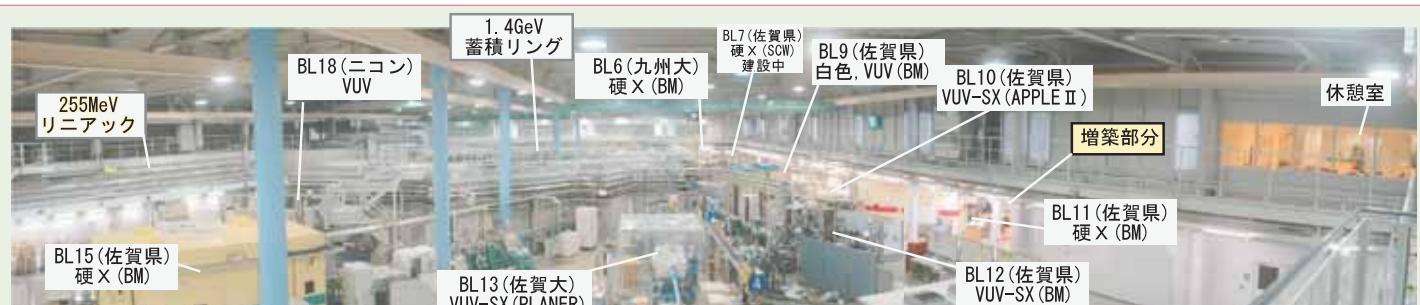
スペクトラル



ビームライン

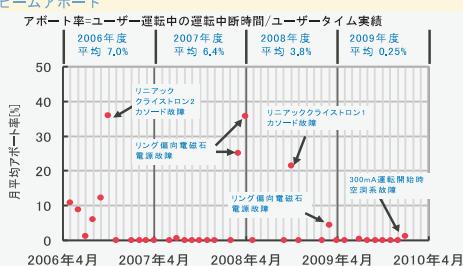
BL1	光基	電子エネルギー (実験手法)	機器	秋葉
BL05	耐候性電極石	30kV-1200eV XAFS,XAS	人間大	秋葉
BL07	超伝導グローバー	4.8kV-9.4kV XRD,XAFS	伏見大	伏見
BL08	偏方向電極石	白色(3keV) LIGA	伏見大	伏見
BL09	耐候性電極石	10kV-50kV 光源	伏見大	伏見
BL10	APPLE-IIアンジュレータ	30kV-1200eV PEEM, ARIPS	伏見大	伏見
BL11	偏方向電極石	3keV-23keV XAFS,XAS	伏見大	伏見
BL12	偏方向電極石	40keV-150keV XPS,XAES	伏見大	伏見
BL13	偏方向電極石	15keV-500keV ARIPS	伏見大	伏見
BL15	偏方向電極石	3keV-23keV XAFS,XRD,イメージング	伏見大	伏見
BL18	偏方向電極石	~92eV 照射, 多層反射	ニコン	通用

蓄積リング室内部

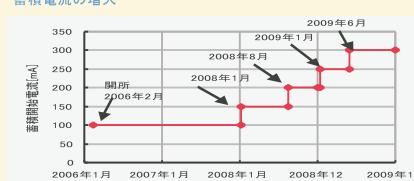


開所以降の加速器運転状況

ビームアボート



蓄積電流の増大



加速器ユーザー運転時間



運転サイクル

入射
2回/日
ユーザー運転時間 10:00-15:00, 16:00-21:00 (10h)
入射調整
9:00-10:00, 15:00-16:00
ユーザー運転日 4日/週

運転例

